

先輩京大生から皆さんへ

1897年創立の京都大学は、今年で125周年を迎えます。この節目の年に入学する新入生の皆さんに、是非大学生活のワクワク感を高めてほしい。そして、環境・社会問題について見つめ直し、現在抱えている課題に目を向けてほしい。そんな思いのもと、歴代の京大卒業生に、エコ〜など京大のメンバーがインタビューを行いました。学生時代の思い出や関心のあった問題、SDGs達成を目指す時代に生きる私たちへのメッセージをお話いただいています。QRコードでインタビューの全文をチェックしましょう!



1963年 理学部卒 **尾池 和夫** 静岡県立大学学長・第24代 京都大学総長

知恵の蓄積する場所で「これぞ」ということへの学習を深めよう

湯川秀樹先生や森毅先生などの独特な授業、大学側に訴えて生物物理学を作った話など、多くの思い出を語っていただきました。大学に蓄積する先人の知恵をものにし、新たな発見に繋げてほしいとメッセージを頂きました。

1975年 理学部卒 **山極 壽一** 総合地球環境学研究所所長・前 京都大学総長

身体を通して

学生主体の自由な活動が盛んな学生時代の京大の話。人類の本質とは何かという観点から派生する環境への関心。「debateではなくdialogue」「先生とは呼ばせない」の精神と、山極さんの考える京大の面白さ。山極さんのお話から学問への接し方を新たに発見出来るかも知れません。

1985年 教育学部卒 **鵜野 祐介** 立命館大学文学部教授

ぼちぼちでええやないか

部活動に明け暮れ、講義に出なかった学部生時代の話、民話研究のきっかけとなった四回生の頃に起こった嘘みたいな本当の話など。更に、替歌や民話に就いての鵜野先生のお話から、子供達や昔の人々の心を垣間見ることが出来るかも知れません。

1995年 法学部卒 **細野 豪志** 衆議院議員

学生ならではの経験、出会い、行動力を大切に

色々な考えを持っている人が混在する「カオス」な京大。京大生だからこそ可能な経験、出会いを活かし、多様な意見を知る重要性、そして行動力を持って社会課題と向き合う大切さについて、自らの経験と共にお話してくださいました。

2008年 工学部卒 **酒井 千佳** 天気予報士・フリーキャスター

一人一人の選択が未来につながる

何にでも一生懸命取り組み、今のお仕事にもつながった大学生活のエピソードをお話頂きました。また、アナウンサー・気象予報士の視点から、一人一人の選択が未来につながるという、地球環境問題と向き合う上で大切なメッセージをお伺いすることができました。

2018年 法学部卒 **横山 恵利香** ブルームバーグニュース東京支局 記者・エコ〜など京大OG

自由に発言できる学風を大切に

エコ〜など京大OGでもある横山さんにお話を伺いました。学生生活の中では京大の自由な学風について話してくださいました。様々なバックグラウンドを持つ人と議論をすることで考えが深まったそうで、それが今の記者の仕事にも活かしているそうです。

1952年 文学部卒 **山内 潤三** 西北大学(中国)名誉教授

「如何にして生きるのか」それが生命なのだ

学生時代に太平洋戦争を経験され、その後京大に入学された山内さんに、ご自身の人生や経験について教えてくださいました。また、平和な世界のために私たちができること、新入生へのメッセージをいただきました。

1966年 医学部卒 **本庶 佑** 京都大学特別教授

まだまだ混沌としていて奥深い生命科学

学生運動に強く影響を受けた学生時代のお話、癌や環境ホルモンの影響に対する研究の変遷や展望をお聞きしました。価値観が固まってしまう学生の間に多くの体験をすることの大事さも語っていただきました。

1978年 教育学部卒 **稲垣 恭子** 京都大学理事・副学長

授業だけじゃない 大学生活を通じた豊かな「学び」

授業など大学生活におけるフォーマルな部分に加えて、学生同士のインフォーマルな関係の大切さ、多様な人が集まる大学で周りから刺激を受けながら学びを深めることの重要性についてお聞きしました。

1992年 文学部卒 **黒崎 博** 映画監督・映像ディレクター

「無駄」を謳歌できる環境へようこそ

日常生活や旅行といった大学時代の思い出と、そこにあった大学生ならではの「無駄」についてお話を伺いました。「無駄の積み重ねから、無駄でない何か生まれる。」効率重視とはまた違う大学生活の良さを感じてください。

1996年 文学部卒 **濱崎 加奈子** 伝統文化プロデューサー・有斐斎弘道館 館長

伝統文化が息づく京都のまちから学ぼう

京都の地で伝統文化にどっぷりと浸かった濱崎さんに、伝統文化の世界に入る偶然の出会いや、印象深い授業などのエピソードをお伺いしました。また、伝統文化という観点から、日々の暮らしと自然環境のつながりについてお話をいただきました。

2010年 農学部卒 **井上 有加** 株式会社井上建築取締役・林業女子会発起人

キャンパス外で森林と向き合う

京大は学校と生活空間との距離が近い大学です。また、京都市は三山に囲まれ豊かな自然がありその大半は大学から自転車で移動できます。キャンパスの外に飛び出しそのような場所で学ぶことが肝要です。

インタビュー実施メンバー

上田 知 弥 (工学研究科・M2)	喜 安 奏 太 (農学部・B3)
久 保 文 乃 (農学研究科・M2)	島 田 草 太 朗 (理学部・B3)
西 道 奎 (人間・環境学研究科・RS)	近 藤 陽 香 (農学部・B3)
奥 野 真 木 保 (農学研究科・M1)	山 本 晃 大 (工学部・B3)
駒 ヶ 嶺 光 (農学部・B4)	角 本 柚 香 (農学部・B2)
榎 田 詩 織 (工学部・B4)	中 田 葉 月 (文学部・B2)
村 山 智 基 (農学部・B4)	

COLUMN 先輩京大生が過ごした時代

先輩京大生たちは、どんな時代を生きてきたのでしょうか。社会の主要な出来事や環境問題、京大の動きをまとめました。

- 1941** } **第二次世界大戦**
文学部を中心に、合計で約4500人の京大生が在学の身分のまま軍隊へ。在学中の戦没者は200人を超えるが、卒業生も含めると何倍になるか未だに不明。
- 1945** } **新制京都大学へ**
1946年、最初の女子学生入学。入学者は文学部12名、理学部2名、法・経済・農学部各1名の合計17名、全入学者1,505名のわずか1.1%であった。1947年には京都帝国大学から京都大学に改称、1949年には六・三・三・四制といわれる新たな教育制度が導入された。
- 1949** ● **湯川秀樹教授にノーベル賞**
湯川秀樹理学部教授の中間子論の業績に対してノーベル物理学賞が授与された。日本人初の栄誉である。この業績を記念して、北部構内には湯川記念館が建てられている。
 出典：湯川記念館
- 1955** } **公害問題の社会問題化**
工業化、都市化が進む一方、大気汚染や海洋汚染が深刻化。水俣病など、健康被害も発生し、社会問題に。
- 1962** } **レイチェル・カーソン「沈黙の春」**
化学製品の乱用の恐ろしさを最初に告発した本。世界に衝撃を与える。
- 1964** ● **東京オリンピック開催**
- 1969** ● **学生紛争**
全国の大学で学生運動が盛んだった時代。京大でも衝突が多発した。学内にバリケードが築かれ、通常の教育研究や入試、入学式や卒業式にも影響が生じた。
 出典：大学文書館
- 1970** ● **大阪で日本万国博覧会開催**
- 1971** ● **環境庁設立**
- 1972** ● **ローマクラブ「成長の限界」**
ローマクラブが、資源の枯渇や環境の悪化により100年以内に地球上の成長が限界に達すると発表。経済成長を主眼とする現代社会に警鐘を鳴らした。
- 1973** ● **オイルショック**
第4次中東戦争の影響で石油危機が発生。日本の高度経済成長が終わる。
- 1982** ● **オゾンホール発見**
日本の南極観測隊が世界で初めて発見。フロン規制などにつながる。
- 1987** ● **「持続可能な発展」の提唱**
「環境と開発に関する世界委員会」が公表した報告書「Our Common Future」で取り上げた概念。「将来の世代の欲求を満たしつつ、現在の世代の欲求も満足させるような開発」のことを言う。
- 1991** ● **ソ連崩壊**
- 1992** ● **地球サミット**
地球環境の保全と持続可能な開発の実現の具体的な方策を得ることを目的に各国首脳が集まり、ブラジル・リオデジャネイロで開催。
- 1992** } **大学改革**
1992〜93年にかけて全学共通科目の開始、大学院重点化、総合人間学部設置、教養部廃止など、大学改革が行われる。
- 1993** ● **環境基本法制定**
環境保全に関する基本的な施策の方針を制定。
- 1995** ● **阪神淡路大震災**
- 1997** ● **京都大学創立100周年**
京大創立100周年を記念して、種々の記念行事を開催。「京都大学百年史」が創刊され、翌年には国際交流の推進を目的とした助成事業も開始。2003年には百周年時計台記念館が竣工。
 出典：京大広報
- 2000** ● **MDGs(ミレニアム開発目標)**
2000年の国連ミレニアム総会で採択された「ミレニアム宣言」の一環で示された。2015年を期限に、「極度の貧困と飢餓の撲滅」など、8つの目標を設定。
- 2005** ● **京都議定書発効**
1997年にCOP3で採択された京都議定書が発効した。1990年の6種類の温室効果ガス総排出量を基準として、2008〜2012年の5年間に、先進国全体で少なくとも5%の削減を目指すことを目標とした。
- 2011** ● **東日本大震災**
東北地方を中心に巨大地震と津波が発生。それに伴う原子力発電所の事故は、再生可能エネルギー普及のきっかけとなると共に、現在も日本が火力発電に頼らざるを得ない原因の一つとなっている。
- 2015** ● **SDGs(持続可能な開発目標)**
2015年9月の国連総会で採択された「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中核をなす、17の目標と169のターゲット。2030年を達成目標としており、「誰一人取り残さないこと」を誓っている。
- 2016** ● **パリ協定**
気温上昇を2℃より十分下方に抑えるとともに1.5℃に抑える努力を継続すること、今世紀後半に人為的な温室効果ガス排出量を実質ゼロにすることが盛り込まれている。
- 2020** ● **新型コロナウイルス感染拡大**
京都大学でも入学式が延期となり、授業がオンラインになるなど、大学生活に激変をもたらした。
カーボンニュートラル宣言
政府は、2050年までにカーボンニュートラル達成を目指すことを宣言した。
- 2022** ● **京大創立125周年**

参照：京都大学のあゆみ 京都大学 創立125周年記念事業特設サイト(https://125th.kyoto-u.ac.jp/history/)